

「令和」発表

新元号の「令和」が発表された1日、安倍晋三首相が会見した。中身はというと、「働き方改革」「一億総活躍」といった国会答弁で聞くような言葉が次々と飛び出した。元号とは、天皇が即位している期間に付ける称号だ。なぜ、その説明で安倍首相の思いを聞かねばならないのか。30年前の「平成」改元の時にはなかった首相会見。その違和感を識者に語ってもらった。

(皆川剛、大村歩)

冒頭発言にあてられた四分二十秒はおごそかに進んだ。出典の「万葉集」を紹介する際、安倍首相は手前に組み、姿勢を左右にこまめに替えて言葉をかみしめるように話した。

質問を受けるとスイッチが入った。

「平成ほど改革が叫ばれた時代はなかった。政治改革、行政改革、規制改革。」

違和感あり 首相会見

新元号「令和」の書を横に、談話を発表する安倍首相＝1日午後、首相官邸で

抵抗勢力という言葉もあった。平成の時代、改革はしばしば大きな議論を巻き起こした。まるで所信表明だ。さらに「働き方改革」に触れ、「一億総活躍社会をつくり上げることができれば日本の未来は明るい」



政策PRなぜ? 「まるで所信表明」

と自らの政策に引きつけて「新たな時代」を語った。「だんだん話が手前みそになっていった。『抵抗勢力』は新元号と何の関係もない。お祝い事の場合、言う必要のない言葉が並んだ」。安倍首相と四十年来の付き合いがあるという政治評論家の有馬晴海氏は、会見での発言を残念がる。

首相の思いが前面に出た会見に、違和感を口にする人は多い。宗教評論家の大角修氏は「元号は純粹に儀礼的なもので、本来は選定や発表に関わる人は己を無にして臨まねばならない。そこに私的な思いを持ち込むから不純な印象を受ける」と話す。

六四五年に「大化」を採用して以来、日本では平成まで二百四十七の元号を使ってきた。キリストの生誕を基点とする西暦(グレゴリオ暦)と異なり、「元号には改元のたびに時間を新しくする機能がある」と大角氏は指摘する。

たとえば地震などの大災害や疫病の流行があれば、災厄を払うために改元する。亀や黄金が献上されれば吉兆を祝い改元する。「庶民がついて行けないほ

平成改元時 当時の首相は淡々と

どしょっちゅう変わった時期もあった」(大角氏)

説得力を保つのは容易ではない。大角氏は「自分と同じ人間が勝手に決めた」ということでは、人間は納得しない」と語る。

例えば数案から新天皇が決めたと言われる「明治」。内侍所(賢所)におもむき、天照大神の前でくじを引いたと明治天皇紀にある。天皇が大権を持っていた時代ですら「人間世界の外」の演出に苦労していたのだ。

戦後、天皇が象徴となり元号決定は法律で内閣に委ねられた。大角氏は「だからこそ、代替わりの時にまたま首相という立場にある人は、『選定作業にあたらせていただいた』というくらいの抑制が必要。自らの政策を持ち出すのは出過ぎた印象だ」と話す。

「平成」改元時は、官房長官だった小渕恵三氏が当時の竹下登首相の五百字ほどの談話を読み上げただけだった。有馬氏は「国民一人一人が未来に思いを致せる簡潔な談話だった。そういえば、竹下氏は結婚式のスピーチも短くて好評だった」と語る。

「F」の追跡

オレが決めたいアピール？

平成への改元とは異なる安倍首相の記者会見を、政治評論家の森田実氏は「前に出てきて、俺が決めたんだぞ、ということのアピールすべきではなかった。憲政史上の汚点ですよ」と厳しく批判する。

森田氏は、新元号の発表に安倍首相がどれだけ関与しないかを注視していた。「ふたを開けてみれば、安倍首相は、これまでの元号の慣習を破って万葉集から言葉を採用したとナショナルリズムを打ち出したり、官房長官の発表で済ませず、あたかも自身の所信表明演説のような説明をしたりと、あきれることばかり」

元号は確かに、元号法に基づき内閣が決めるものだが、「出しゃばりすぎ。戦後、象徴天皇制となり政治利用を厳に慎まなければならぬ」ということを、平成の代替わりのときの竹下首相はよく分かっていた。会見して、元号に自らの政治的メッセージを乗せるようなことはしなかった。「令和」の語にも安倍色を感じる。令の字源は「人がひびきまわす」として神意を聴く

さま」（大漢語林）とされる。「和せよ」と命じられているようで、上から目線な印象。独善的な安倍首相と重なる」

意識して安倍首相の会見中継を避けた人もいる。同志社大の岡野八代教授（政治思想史）は「みなさん新しい時代を（とほいで、都合の悪いことを忘れてください、というメッセージを聞かされるのは分かっていながら」とぼささり切る。米軍基地を押しつけられ



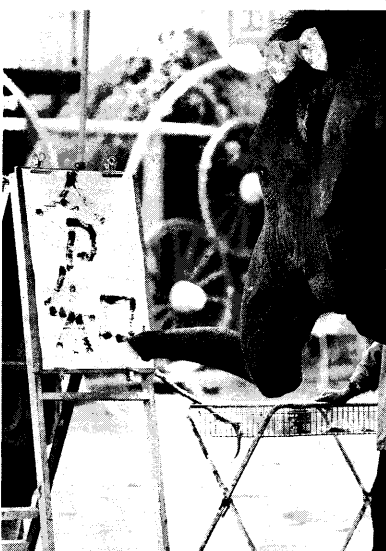
「権力者の都合で時代に区切り」

た沖縄、帰れない故郷をつくった東京電力福島第一原発事故、格差社会の深刻化、続発するセクハラや女性差別、外国人の人権問題を置き去りにして始まった移民政策……。平成の三十年間を振り返ると、ことほぐ気分にはとどいていられない。

「現代の民主主義社会で、権力者の都合で勝手に時代に『区切り』を付けるなんて許されるはずがない。国内外で人々の分断ばかりをつくり出している安倍首相が和を語るなど何様？ と思う」

昨年刊行した「国体論」（集英社新書）執筆の際、生前退位の意向を示した天皇の「お言葉」に衝撃を受けたという京都精華大の白井聡専任講師（政治学）

●街頭の大型スクリーンに映された新元号発表の様子を見る人たち＝1日午前、東京都新宿区で
●新元号「令和」の文字を書くアキアソウウゆめ花＝1日午後、千葉県市原市の動物園「市原ぞう園」で



「国家・国民・国土の私物化」

は、「国民統合の象徴たるために熟慮を重ねて語られた天皇の言葉の重みと比べるのが失礼なほど、今回の安倍首相の会見の言葉は軽い」と語る。

国書・万葉集からの出典は初だと安倍首相は胸を張った。しかし、より古い中国古典に似た漢文があり、原典は結局中国古典ではないか、との指摘が早くも噴き出している。

「古来、中国や朝鮮との影響を受けてきた日本で『混じり気のない純日本文化』などあり得ないし、古今東西、知識人はあえて原典を示唆するような本歌取りをしてきた。そういうことを意図的に無視したのか、無知による思い込みなのか。政府説明を無批判に

「こういう時代に」言う権利なし

思いをどくとくと語る姿にも強烈な違和感を持った。「本来、元号は公表された時点ではからっぽで、どのような時代になるかは後で決まっていく。こうあってほしいという言葉の意味は簡単に解説されてもよいが、『そういう時代を国民の皆さまとともに築き上げていきたい』などと、権力者は言うべきでない。こういう時代にせよと言う権利は誰にもないからだ」

そして白井氏は「政治家の立場で、元号に自分の意図を乗せるなど、以前の改元ときはなかった。おこがましいという思いがあったのではないか。しかし安倍首相はそれをやった。彼が、国家・国民・国土を私物化していることを可視化した会見ではなかったか」と指摘した。

テスクメモ

NHKはじめテレビは朝から改元祭り。その画面に、多くの人が号外を取り合う様子が映っていた。新聞離れが言われる世の中。人が群がるのを見て、少しうれしくなった。ネットを開いた。やはり、その号外が売られていた。嫌な感じの首相会見とあいまって、気分が下がった。（裕）